

～訓練紹介～ 調理訓練



勤労者世代で脳卒中発症者が増えてきている中、利用者自身が栄養管理を実践する事は、再発や合併症予防、就労に耐える体力の構築、ひいては社会生活力向上につながる重要な事となります。障害者支援施設<にじ>では栄養管理実践のため、利用者2～3名に対し、作業療法士と管理栄養士各1名が介入し、調理訓練を行っています。

<にじ>の調理訓練は①評価調理訓練、②実用調理訓練、③料理教室の3段階で実践しています。まず、評価調理訓練で作業療法士が主に動作確認を行います。その後、実用調理訓練・料理教室で社会復帰の準備のため、自分が作りたい物の献立作成、買い物、調理、片付けと一連の流れを練習します。

管理栄養士は、献立作成時から栄養面の助言を行い、食材の購入にも立ち会います。また、味付けのアドバイスや、利用者・職員で料理を食べ、振り返りをするグループ討議にも参加し、専門家の視点からの指導を行い、利用者自身の今後の栄養管理に反映できるよう取り組んでいます。



片手が不自由な方でも
調理しやすいように
まな板に工夫をしています！



作業スペースの広さも
ばっちりです☆



お世話になった仲間の役に立ちたい

～就労移行支援OBの方のお話～

現在、別府市の介護施設でパート職員として働く30代のSさん
約4年前、脳出血を発症され、重度の右片麻痺や失語症、高次脳機能障害の重い後遺症が残りました。



病前は介護職員として約10年間勤務され、お仕事にやりがいを持ち、自他ともに認める仕事大好き人間でした。身の回りの生活動作自立を目標に<にじ>自立訓練をスタートしました。徐々に屋外歩行訓練や外出訓練など活動範囲を広げるための課題クリアに向けてコツコツと頑張っておられました。

その後<にじ>就労移行訓練を利用され、就労を目標に物品管理(補充)や掃除などの職業訓練や自身の後遺症を正しく理解し相手に説明する勉強会に取り組みました。今後の方向性を模索している中、前職場から「Sさんに、またうちに来てほしい」と声がかかりました。「病前のように働けない事は分かっている、同僚みんなの雑用係になれば」との思いで、職場実習に真摯に取り組み、職場との打ち合わせを重ねた後、周囲に暖かく迎えられて4月より前職場に勤務されています。

仕事は週5日・5時間勤務です。施設内の居室清掃や物品補充、窓ふきなどを行っています。また人恋しくてソワソワしてしまう入所者様の大事な話し相手にもなるそうです。「にじの訓練がすべて役立っていると感じる」と仰ってくださるSさん。Sさんの温かい人柄で癒される入所者様も多いのではないかと思います。



お給料は週1～2回ヘルパーさん同行での日用品の買い物や、2～3か月に1度、趣味の映画鑑賞に行くことなどに使われているそうです。確かお部屋にもたくさんのDVDコレクションがありましたね。

最後に発病してから仕事につくまで長かったと感じますか？と質問したところ「長かったと思うが、それだけかかったから、歩きまわれる体力がついたし、病氣しなければ会えなかった人にも知り合えたから、無駄じゃなかったかな。」とお話されました。改めてSさんの前向きで明るい人柄に触れ、ますます応援したくなりました！無理をなさらないよう、体に気を付けて仕事も趣味も楽しんでくださいね。



就労移行支援の方がここで
ミーティングや作業を行います。

就労移行支援ワーキングスペース



<にじ>

保健室の役割



<にじ>保健室は、利用者の方々にとっての癒しの空間であり、健康に関する教育の場所でもあります。日々の生活や訓練を円滑に継続するには、心身ともに健康であることが何より大切です。保健室では、利用者の健康面での自己管理を目指すことで、社会復帰へと結びつけています。

<にじ>保健室ならではの、自立に向けての段階的な取組をご紹介します。

① 内服管理の自立

内服薬の管理ができない方→職員が薬を管理し、毎回飲みに行く→一日分の自己管理（空袋を職員に持参）
→二日分、一週間分と段階的に日数を伸ばす→薬包の切り分け練習→自立

② 血圧管理の自立（降圧剤内服の方）

血圧計を使用できない方やノートに書けない方→保健室へ毎日同時刻に測定に行く
→血圧計の使用の仕方や、ノートへの記入方法を練習→自立

*血圧値の記録は、健康管理上大変重要です。診察の際に記録ノートを持参し、医師に見せて報告できるようになることが最終目標です。



③ 排便コントロール

排便コントロールがうまくできない方→「排便カレンダー」に記入し、排便周期や排泄量を観察
→看護師や医師へ報告→薬剤調整でコントロール

*「排泄カレンダー」に記入することで、排泄への意識付けと状態を確認できます。
また、座薬を自分で挿入する練習なども行います。



このほかにも、食生活の改善（間食の取り方）や生活指導・予防活動など個別の対応を行い、揺らぐ心の心理的サポートや、健康教室なども開催しています。

毎日の健康管理を習得していくと、徐々にご自身の健康面へ意識が向くようになり、訓練意欲の向上や退所後の安定を得ることができます。

これからも、<にじ>保健室は、利用者の皆様の健康管理能力の向上や、それぞれの目標達成に向けて工夫を重ねながら日々取り組んでまいります。



服薬自己管理に向けて職員がサポートします！



掲示板を利用者自身で確認してもらい、自発的な行動を促します。



血圧測定も毎日欠かさずに行います。



社会福祉法人農協共済 別府リハビリテーションセンター

障害者支援施設 にじ （機能訓練・生活訓練・就労移行支援・施設入所支援）

〒874-8611 大分県別府市鶴見1026-10

TEL : 0977-67-1716

ホームページ : <https://brc.or.jp/>